

第 1484 回例会報告

平成28年12月1日(木)曇り

会長挨拶

会長 河西達雄

トイレを使えるのは普通ではない

先日、会社の組織替えがあり「税理士法人カマチ」として出発しました蒲地会員の事務所にお伺いする機会がありました。

そのおり階段の途中に「職場の教養」という小冊子がおいてあり、ご自由にお持ちくださいと書いてありましたので11月号12月号と2冊いただきました。聞くところによると「倫理研究所」という法人の発行で結構有名な団体ようです。

その11月10日の欄に次のような記事が載っていました。「

「人が集まる場所にはトイレが必要です。トイレがなければ集まりません」。これは日本トイレ協会会長の高橋志保彦氏の言葉です。本日は「いい(11)トイレ(10)」の語呂合わせで、「トイレの日」として制定されています。

同協会はトイレの日に合わせて、シンポジウムを開催したり、トイレに関する様々な取り組みを「グッドトイレ選奨」として表彰しています。

日本に住む私たちが、日常生活の中でトイレが使えない状況は滅多にありません。一方、視野を広く向けると、世界では約三人に一人が、トイレを使えていないといわれます。

こうした現状が少しでも改善できるよう、ユニセフによる「世界トイレの日」プロジェクトも始まって

います。

トイレがあるということは、それだけ恵まれている証でしょう。地域の公園や駅のトイレがきれいに使えることも、決して当たり前のことではありません。普段当たり前だと思っていることに、感謝する心を持ちたいものです。以上が全文です。

ロータリーの社会奉仕活動の最初がシカゴにおける公衆トイレの設置運動だったことを考えると、大切な物の考え方の一つかなと感心しました。

話は変わりますが国際ロータリー第2600地区青少年育成基金プロジェクト助成金の案内がきました。申請締め切りが12月末日というタイトな日程ですが、何か案があったらお知らせください。至急みんなで検討してみたいと思います。

◇幹事報告◇

【連絡事項】

1. 国際ロータリー第2600地区青少年育成基金プロジェクト助成金の案内が届きました。回覧します。また助成金申請のために案をお持ちの方は用紙をファックスしますので、事務局までご連絡ください。
2. ロータリーの友事業報告書が届きました。回覧します。赤字のようです。

【受領文書】

1. 月信が届きました
2. ロータリーの友が届きました
3. ロータリー財団第2ゾーンニュースが届きました。回覧でも良い気がしますが、地区の指示で会員

■出席報告

会員数	38名
出席対象	37名
出席者数	27名
出席率	75.0%
前回修正	91.7%

■ニコニコBOX

6名	6,000円
累計	214,300円
目標額	60万円
達成率	35.7%

■今週のことは



分印刷して配布します。全員配布の可否についてご意見を幹事までお寄せください

4. あずみ野ロータリークラブ 30 周年記念誌が届きました。

委員会報告

【クラブ奉仕委員会】

岩村会員の米寿のお祝いには多くの方に参加いただきありがとうございます。

【社会奉仕委員会】

12月7日は諏訪湖浄化講演会です。午後7時から図書館です。お忘れなく

【国際奉仕委員会】

おかげさまで多くの寄付をいただきありがとうございました。財団一人200ドル以上の地区目標を達成できました。

第 1484 回例会

保護司の活動について

担当 クラブ会報・雑誌広報委員会

会員卓話 小林聖仁会員

長野県保護司会連合会長でもあります小林聖仁会員より、保護司の仕事の一端をお聞きしました。

最初に小林会員のご協力です。2月に開催されるIMの講演会で講師を務められる、北九州市の野口義弘氏を紹介したビデオ「HAND」を鑑賞しました。このビデオは地元の中学生が作成したビデオでNHK 全国放送コンクールの最高賞を受賞したビデオです。中学生の作成したビデオとは思えぬ出来のビデオですが、やはり題材の良さがこうした中学生の熱意を呼び寄せたのだろうと感じました。ますますIMでの公演が楽しみになりました。

引き続きわずかな時間でご紹介いただいた卓話のうち、レジメから印象深くわかりやすい「更生保護活動とは」を再掲します

更生保護活動は、犯罪や非行をした人々が地域社会において円滑に立ち直りができるように助

け支える活動です。そのためには、立ち直りの場である地域社会から、更生保護に対する理解と協力を得ることが必要不可欠です。これは、犯罪や非行のない誰もが暮らしやすい社会づくりを目指すことにもつながります。

「やっぱり、罪を犯した人の立ち直りを支えるっていうのは、なんか納得がいかない」「同じ境遇でも頑張ってる人もいるじゃない」「結局、自業自得なんだから、支える必要はないし、どうだろうが放っておけばいいじゃない」そう思う人も多いはず。しかし、ここでもう一度立ち止まって、彼らの置かれている背景や環境のことなどイメージしてみてください。

もし、私たちすべてが彼らを排除して、居場所が地域になくなってしまったら……。その結果、彼らが再び罪に手を染め、ひよっとしたら、今度は自分も含め誰かが被害者になってしまうかも知れません。更生保護はこのような状況のなか、彼らを「一人じゃないよ」と、みんなの絆で立ち直りを支えることで、結果として安全で安心な私たちの生活を実現することにつながります。

更生保護は、私たち一人一人の大切な課題でもあります。自分たちが住む街で、手と手を結び、心と心を通わせる街づくりが更生保護活動です。是非とも御理解の上、できる範囲で更生保護活動に参加してみませんか。

岩村会員の米寿を祝う会

クラブ奉仕委員会

さる11月29日、クラブ奉仕委員会の呼びかけで「岩村亀夫会員の米寿を祝う会」が開催されました。

めったにない、おめでたい機会に大変盛り上がりしました。これからも岩村会員が、元気で大いに活躍されることを心からご期待申し上げます。

